

第44回中央委員会は3年ぶり中央委員が参集して開催!! 基本給一律3万円の大幅賃金要求で一致団結を!!



東京都大田区蒲田
5の10の2
全日本港湾労働組合機関紙
(組合員の購読料は
組合費の中に含む)
発行責任者
松永英樹



1月31日～2月1日愛知県豊橋市「シーパレスリゾート」において、第44回中央委員を開催しました。中央執行委員19名中出席19名、中央委員45名中委任状1名出席44名にて中央委員会の成立を確認した。



一月三十一日から二日間の日程で全港湾の第四回中央委員会を開催した。総勢六三名が参加し、議長団に四国地方の中土井寛中央委員、九州地方の松崎大悟中央委員を選出、熱心な議論をおこなった。主立った質疑は①石炭火力問題、②トラック・バス・タクシー関係、③人手不足・雇用保障闘争関係、④議員懇談

一月三十一日から二日間の日程で全港湾の第四回中央委員会を開催した。総勢六三名が参加し、議長団に四国地方の中土井寛中央委員、九州地方の松崎大悟中央委員を選出、熱心な議論をおこなった。主立った質疑は①石炭火力問題、②トラック・バス・タクシー関係、③人手不足・雇用保障闘争関係、④議員懇談

鈴木委員長

第44回中央委員会挨拶要旨

第44回中央委員会に参加の全国の仲間の代表の皆さん、大変にご苦勞様です。また、依然として収束の兆しの見えない世界的なパンデミックのコロナ禍において、対面での中央委員会開催に際して各地方の中央委員の出席を頂いたことに感謝を申し上げます。そして、全国の組合員、仲間の皆さんのコロナ禍での作業、就労に最大限の敬意と感謝を致します。

今年度の年明けの経済界の新年会や連合の賀詞交歓会など90年台半ばからまったく

言っているほど賃金が上がらずに今日を迎えています。振り返れば、全国港湾は2年越しの春闘をたたかうとしてから、その後は失われた10年を取り戻す春闘などとして産別春闘をたたかってきました。それが、失われた20年となり、今となっては30年以上失われていると思っています。港湾運送事業法の規制緩和が強行されました。その後、我々港湾労働者はグローバルスタンダードと称して、国際基準に対応が必然だと言われ、ユーザーのニーズにこたえることが求められて364日24時間フルオープン等に代表される働き方に協力してきました。我々の働き方、労働だけが『国際基準』グローバルスタンダードとなりましたが、その労働の対価である賃金、労働条件は国際基準より大きく取り残されていると私は思えてなりません。我々、物流だけでなく日本社会全体の社会経済と社会生活の構造がこの様な競争することを強要される方向へと突き進んで

国民は最低限の生活もできなくなることを改めて証明されています。今年には戦後78年で、絶対にいつかの道へは戻らせない、その決意を改めて強くするところです。昨年9月に中央執行委員長となり、私にとって言わばこの春闘は『初陣』です。失われた30年を取り戻す、次の世代につなぐ、一年目の春闘としたいと決意しています。人が集うとき明るく、楽しくなければ人は集まりません。皆さんの真摯な議論をいただいて、全港湾らしく明るく、楽しく、将来へつなぐ、未来を見据えた たたかう全港湾23春闘方針が確立される事をお願いして私のあいさつとします。よろしくお願ひします。

全国港湾

真島委員長来賓あいさつ要旨

全港湾第44回中央委員会の開催にお招きいただきました大変ありがとうございます。ただいまご紹介いただきました全国港湾連合会の真島です。全国港湾を代表し、一言挨拶申し上げます。まず最初に申し上げたいことは、ロシアがウクライナに侵略してからの、まもなく一年が経過します。侵略当初は、空港、原発、そして穀物輸出の拠点である商業の港、オデッサへの攻撃です。戦争で

私たちは労働組合幹部は、少なくとも過去の歴史を繰り返してはいけないということを信念として持たなければなりません。驚くことに現在、合意されている日米新ガイドラインでは、簡単に言うところ、アメリカを心とした戦争、いざ後方支援しなさいという状況になれば、港湾労働者の能力・労働力を適切に活用すると明記されています。このことは強制的に徴用させる結果となることであり、危惧される事態であります。大きな意味の反戦平和を語りだすと、あらゆる方面に広がるため、私はあえて港湾労働者の安全の

